

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071102018		
法人名	大和ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 花うさぎ 塩原 (さくら館・もみじ館)		
所在地	〒815-0032 福岡県福岡市塩原二丁目2番8号 Tel 092-511-1111		
自己評価作成日	令和 元 年10月08日	評価結果確定日	令和元年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和 元 年12月04日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>開所16年目に入り、地域に根差した施設を目指し、行事参加の呼びかけや入居者様の参加、推進委員の方々との意見交換などを盛んに行っています。 屋上庭園での苗植えから生育、芋ほりと近くの保育園児との交流は、今日まで毎年続いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「花うさぎ塩原」は、地域に根付いた事業所として、介護や地域の問題等の相談を受け、地域福祉の拠点として活動しているグループホームである。利便性の良い快適な環境の中に、介護付き有料老人ホーム、デイサービス併設で14年目の事業所である。季節の花や野菜が育つ屋上庭園では、さつま芋の収穫を通して保育園児との交流が始まり、利用者の楽しみなひと時である。家族会や秋祭り、餅つき等に家族の参加が多く、毎月、担当職員のコメントと写真を添えた便りを家族に送付する等、連絡や報告を密に行い、家族からの信頼も厚い。ホームドクターと看護師、介護職員が連携し、24時間安心の医療体制が整い、看取りの支援に取り組んでいる。塩原地域の力強い協力を受け、地域密着型事業所として、今後益々期待が大きい、グループホーム「花うさぎ塩原」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼内での唱和や運営会議での再確認、理念の掲示を行うなど共有、実践に繋げている	毎朝1階で行われる合同朝礼で、法人理念を職員が唱和して、理念の共有に努めている。職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解し、利用者本位の介護サービスを目指し、利用者が安心して暮らす事の出来るホーム作りに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りや運動会参加、敬老の日のお祝い会など、交流を毎年続けている	地域の夏祭りや運動会、避難訓練等に、利用者と職員は地域の一員として参加し、ホームの秋祭りや餅つき大会には、地域の方や家族が大勢参加している。地域の子供達が敬老の日にお祝いに訪問したり、屋上の芋畑を保育園児に開放する等、開設14年目を迎え、地域交流の輪が広がっている。	近隣の公民館で行われている「ふれあいサロン」への利用者の参加や、民生委員を招待して見学会の開催等、オープンな関係の中で、認知症やグループホームの啓発に取り組んでいくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の学校の職場体験や実習を数多く受け入れ、認知症の理解や支援についての方法を実践している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、その中で、施設内の取り組みや報告を行い、意見交換を行っている	2ヶ月毎に運営推進会議を定期的開催し、ホームの運営や取り組み、課題や事故等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報等の提案を受けて話し合い、ホームの運営や利用者の介護計画促成に活かせるように取り組んでいる。出された意見や要望は、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの方と運営推進会議を通じ、繋がりをもち、相談、報告を行っている	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。グループホーム連絡協議会に参加し、行政との情報交換会を行っている。管理者は、行政担当窓口や地域包括支援センターに出向き、相談を行っている。	認知症カフェや行方不明者捜索模擬訓練等を、行政や地域と協働で行い、認知症高齢者が安心して暮らせる地域作りへの取り組みを期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を発足し、研修参加を行い、全職員に対して、委員を中心とした研修会を3日ヶ月に1度開催している	身体拘束の職員研修が義務化されたので、外部研修や内部の勉強会の中で、身体拘束について学ぶ機会を設けている。職員は、拘束が利用者にも与える影響について話し合い、身体拘束の具体的な事例を挙げて検証し、言葉や薬の抑制も含め、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令遵守に基づいた事業所内外の研修を行い、虐待防止の徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修に参加を行い、家族会では成年後見人制度についての説明を行うなど、安心した活用ができるように支援している	外部研修で学んだ職員が会議の中で伝達し、制度についての周知を図っている。資料やパンフレットを用意し、必要時には、制度の内容や手続きについて説明し、それらを活用できるよう支援に努めている。現在、制度を活用している利用者がいるので、業務を通して制度についての理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず、事業所の案内と説明を行い、理解を得て頂き、雰囲気を感じて頂いた上で契約を結んでいる		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議には、ご家族様交代で参加をして頂いたり、また、家族会などで出た意見は、運営に反映している	職員は、ホームの中の日常会話から、利用者の意見や要望を聴き取り、職員間で共有し、実践に繋げている。家族の面会や秋祭り、家族会や運営推進会議等、家族来訪の機会が多く、職員が家族とコミュニケーションを取る中で、意見や要望を聴いている。出された意見は検討し、ホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の運営会議で出た意見や提案は実行に移し、また、問題解決に繋がれるように努めている	全員参加の職員会議(運営会議)を毎月定期的に行い、報告や研修会、意見交換等を行い、その後、各ユニットに分かれてカンファレンスを実施している。職員間で活発な意見交換が行われ、出された意見は、速やかにホーム運営や業務改善、利用者の日常介護に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの見直しをはじめ、働き方改革の一つとして、プロジェクトを立ち上げ、官民一体となった研修を行い、働きやすい環境を目指し取り組んでいる		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等を理由に排除することなく、障害者雇用を積極的に受け入れ、有する能力に応じた働き方をしている	法人全体で職員の処遇改善に取り組み、休日を増やしたり、夜勤手当を上げる等職員の定着を目指している。管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担し、職員が生き生きと働けるよう心掛けている。また、外部研修受講や資格取得を奨励し、職員が向上心を持って働けるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や権利擁護の研修に職員は参加を行い、学んだことを事業所内に持ち帰り、共有を図っている	外部の人権研修に参加した職員が、内部勉強会の中で伝達し、利用者の人権を尊重した介護について確認や意識づけを行っている。利用者の尊厳を守る介護のあり方を職員間で話し合い、利用者がホームの中で、安心して暮らせる介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの計画に合わせ、職員は施設内研修、及び、外部研修に年に1度は参加し、意識向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークの研修会や勉強会には積極的に参加を行い、知り得た情報を活かしてサービスの質の向上に努めている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の求めていることや不安などをご家族からも聞き取りを行い、気づき解決することで信頼関係を築けるように心掛けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、事業所内の案内、説明時の中で、状況を尋ね、困り事や要望を聞くなど、より良い関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にまず、どのような支援を求めているのか、他サービスも含め、必要と思われるサービス支援に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の中で生活しているような雰囲気作りに心掛け、個々に合わせた声掛けを行っている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況報告は、毎月写真付きのお便りを送り、生活のお知らせや家族会や秋祭り、餅つきなどの行事を企画し、本人とご家族様の絆を維持できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の同意のもと、家族や親せき以外の方で馴染みの方との関係が継続できるように、支援に努めている	利用者の友人、知人の面会は家族の了解を得て実施している。また、以前から行きつけのスーパーへの買い物や墓参り、盆、正月の帰宅等、家族と協力しながら、利用者の人間関係や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活状況に応じて行事や外出と一緒に参加されることで、より良い関係を築いて頂けるように努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や問い合わせについても、いつでも対応に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取りをはじめ、センター方式を活用し、本人からの言葉や思いを汲み上げ、意向に沿えるようにしている	アセスメントを活用し、利用者の希望や意向を把握し、職員間で実現に向けて話し合い、利用者の希望で、誕生日にケーキを用意する等、日常会話の中から言葉を聞き逃さないよう努めている。意志を伝えることが難しい利用者に対しては、表情や仕草を観察しながら、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や暮らしぶりを情報の中から、把握し、生活環境の変化が無いようにサービスの継続に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状況や変化を見逃さず、記録や申し送りノートの活用で、職員全員が団結し、共有できるように努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をよく観察し、毎月1回のカンファレンス、モニタリングにて、意見を出し合い、ケアの向上に努め、介護計画を作成している	家族の面会や電話等で、困っている事、気になる事を尋ね、意見や要望を聴き取っている。毎月のカンファレンスで検討し、関係者の意見を盛り込んだ介護計画を3~6ヶ月毎に作成している。また、利用者の急変や重度化に合わせ、家族や主治医、看護師と話し合い、その都度介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに沿ったケアは、記録、実践表に記入し、職員は情報を共有し、変化や達成があれば介護計画を見直している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれたニーズに対して、生活歴を考慮しながら、解決できるよう、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流があり、情報を頂いている 公園へ散歩やスーパーでの買い物、校区のイベントにも参加し、楽しみの持てる暮らしを支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	医療機関の契約は、本人、家族の意向に沿っている かかりつけ医との連携をとり、適切な医療が受けられるよう支援している	現在は、利用者全員がホームの協力医が主治医となっている。月2回の往診と、夜間でも電話による指示、対応が可能な24時間対応のホームドクターとクリニックの看護師、ベテラン介護職員との連携により、安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	体調不良者や特変者が出た際は、連絡、相談し適切な判断ができるように支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、事業所での生活状況や基本情報を伝えている 入院中にご家族からだけでなく、面会時に情報を尋ね、関係づくりをしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、早い段階で話し合いを行い、かかりつけ医との連携をとり、方針を共有し、チームケアで支援している 定期的に看取り介護の研修を行っている	入居時に重度化や終末期におけるホームの方針について説明し、承諾を得ている。看取りを始めて8年になるが、看取り経験のある職員が増え、経験のない職員にアドバイスしながらチームで看取りに取り組んでいる。また、協力医療機関の医師、看護師とも密に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受講しており、救命講習修了スタッフ常駐施設の証を頂いている 施設内では、年2回の避難訓練、研修を行っている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では訓練や食料、水を確保している 校区の避難訓練にも参加し、地域運営推進会議では、協力体制を話し合い、確認している	年2回避難訓練を法人全体で実施し、火元を特定し、昼夜を想定して、各事業所の職員と連携しながら、利用者が安全に避難場所に避難できる体制を整えている。また、校区の避難訓練にも積極的に参加する等、地域と協力しながら地域防災訓練に参加している。非常食、飲料水の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話はここに合わせながら、基本は優しく丁寧に話しかけ、傷つけないように配慮している 接遇の研修を行っている 個人情報の管理、守秘義務を周知している	利用者のプライバシーを守る介護では、排泄や入浴の場面においては、ドアを閉める等、利用者の誇りや羞恥心に配慮している。また、個人記録の保管や職員の守秘義務についても、情報漏洩防止の徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなこと、やりたいこと、行きたいところ、食べたいもの、飲みたいもの、会話や表情、態度で把握し、できることは対応している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースに合わせた日常を心掛けている 食事時間や散歩、昼寝等、個々に合ったペースや時間で行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と相談しながら、その方の好みを尊重し、清潔感があり、若々しく感じられるよう支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明を行い、料理の名前を知って喜んでもらっている 定期的におやつ作りを一緒に行っている 食器洗いも毎回行っている	外注による食事の提供に変更し、利用者一人ひとりに合わせた料理が安定して提供されている。陶器の器に美しく盛り付け、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供している。利用者の力に応じて、茶碗洗いやお盆拭きを手伝ってもらい、時々はおやつ作りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が細くなった方には、好きなものをプラスして提供している 歯の少ない方、嚥下不良の方には、刻み食、ソフト食、ミキサー食をその方の状態によって提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度歯科往診があり、口腔ケアやチェックを行っている、また、口腔衛生指導を受け、その方に合った口腔ケアを行っている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、できる限りトイレ誘導を行い、失敗やパットの汚染を減らせるように支援している	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、職員2名介助で排泄を促している。利用者の希望や状態に合わせて、夜間もトイレ誘導を出来るだけ行い、自立に向けた排泄支援と、オムツやリハビリパンツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活では繊維物、乳製品などで予防している 適度な運動を働きかけ、主治医と相談しながら、便秘薬の調整を行っている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前はバイタルを確認し、安全な入浴ができ、清潔が保てる様にしている 個浴でゆっくり楽しんで頂けるように努めている	利用者の希望や体調に配慮して、二日に1回、三日に1回の入浴となっている。ほぼ全員が浴槽に浸かってゆっくりと入浴を楽しんでいる。4階の特殊浴槽を利用しての入浴も可能であり、重度化しても、安心して安全な入浴が出来るよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子で1日を過ごされる方や傾眠が強い方など、状況に合わせ、いつでも休んで頂けるよう支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて確認し、理解や把握を行っている かかりつけ医や薬剤師とも連携し、体調の変化や薬の変更時は、家族にも報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活が活かせるよう、家事や植物の水やりをスタッフと一緒にやっている 成長を観察しながら収穫やきれいに咲いた花を愛で楽しんで頂けるよう支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日には、近隣の公園や河川敷に散歩に付き添っている 地域の方からも行事の連絡をもらい出かけている	天気の良い日には、近隣の公園や買い物に出かけ、日常的な外出を心掛けている。また、地域行事への参加や季節の花見、ドライブに出かけている。屋上庭園において外気浴を楽しんだり、花壇や畑の手入れ等、重度化しても戸外に出る機会を設け、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族が管理されているが、一緒に買い物に行った時には、必要なもの、好きのものを選ぶように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望には常時応じている 知人やお孫様から手紙が届いたり、馴染みの方の電話も応じている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度、湿度に気を配っている 汚れや臭いがしないように掃除にも力を入れている ガラス越しの景色を楽しんで頂きながらも、日光でまぶしくないよう、レースのカーテンで配慮している	窓から見える銀杏並木、季節の飾りつけ、交流のある子ども達からの手作りのプレゼント等、季節感あふれる温かな雰囲気のある共用空間である。また、清掃に力を入れ、利用者が気持ち良く過ごせる環境を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり、皆さんとレクをしたり、その時々でソファーや自席で思い思いに過ごされている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学や入居の際には説明し、馴染みのあるものを持ってきて頂き、落ち着いた空間を提供している	入居前に利用者や家族と話し合い、書道の作品や写真、花、置物等、思い思いに飾り、その人らしい居室となるよう、家族と協力しながら整えている。また、仏壇や位牌、馴染みの家具を置く事で、利用者がホームの中で安心して暮らす事ができるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握し、残存機能を活かせるように支援している 家事のお手伝いを積極的にして頂いている		